

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(115)、(148)」

2. 日時：令和4年1月12日（水）16時05分～18時15分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、大井安全審査専門職、磯田係員、松末技術参与

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・ 審査資料の品質確認について
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動評価に係るコメント回答等について
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料①）（敷地における地震動の増幅特性）
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料②）（地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価（震源モデル及び地震動評価結果の詳細））
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について（補足説明資料③）（地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価（震源モデル及び地震動評価結果の詳細））
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について

(補足説明資料④) (敷地ごとに震源を特定して策定する地震動に係るその他の補足説明)

- ・ 浜岡原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動評価に係るコメント回答等について

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁のサグチです。
0:00:06	本日は中部電力から浜岡原子力発電所敷地ごとに震源を特定して策定する地震動に関わるコメント回答のヒアリングということでこれから執り行いたいと思います。
0:00:22	説明の方よろしく願いいたします。
0:00:27	中部電力のナカガワでございます。新年明けましておめでとうございます。私どもも地震動、それから津波、敷地内断層につきましてですね、これからしっかりと今年も御説明をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
0:00:44	それではまず最初にですね、審査資料の品質確認について、
0:00:50	御説明をさせていただきます。
0:00:56	中部電力アmanoでございます。手間と右肩のH4CilについてR01の審査資料の品質確認について、の資料について御説明をさせていただきますとまず2ページ目ですが、2018年6月に
0:01:13	必要なエビデンス折り込みのための品質確認体制を改善いたしましたというところを御説明させていただいております。箱書きですが、審査に必要なエビデンスが審査資料内に反映できていないことが続きまして2018年5月、
0:01:28	審査会合におきまして原因究明に蔵書管理の改善を含めた再発防止策についてコメントいただきました。これを2018年6月4日の面談におきまして資料作成の品質確保のためのPDCAをまわして経験豊富なシニア策により、
0:01:46	第三者目線からエビデンス折り込みの要否を含めてチェックを行うということ及び改善した品質確認体制について報告を行いました。具体的にフロー書いてございますがチェック3というところで、従来どうしても資料作成チームというのは資料を作ること。
0:02:05	に対して注力しておりますそれが客観的に見て技術的に必要なエビデンスが入っているのかどうかというところまでの考えが甘い部分もありましたので、そこを補うという形で是正をさせていただきます。
0:02:20	続いて、3ページ目でございます。
0:02:27	2020年の審査会合に先立ちまして敷地の地質地質構造についてH断層系の1の最新化を進める過程におきまして、2016年1月8日の第316回審査会合でご提示させていただいております反射法探査の結果の
0:02:45	速度断面と震度7目の梁間違いを発見いたしました2020年7月3日の第871回審査会合にて報告をさせていただきました。こちら原因究明を行ったと

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ころ、解析途中のデータと最新のデータが同じ保存先に混在して保管されていたことから、
0:03:05	確認不足による梁間違いが発生したということを確認いたしました右に図示させていただいておりますが、この対策前というところで反射法探査の結果を解析途中のものと最終というのが同じフォルダーに入っております。
0:03:21	どうしてもファイル目がニップか予定のところもありますんでこれを取り違えてやはり間違いを起こしたということですので、この原因究明を行った。
0:03:32	結果は、今後の対策としましては解析途中のデータと最終的に審査資料に掲載するデータの保存先を事前に分けることであり間違いを防止することいたしました。超えてQMSに基づき同士の間違いが基準地震動や基準津波の過去の資料にもないかと。
0:03:50	ということで水平展開して閉校させて確認をすることいたしましたこれも模擬してありますが、最初から保存先の解析中なのか最初なのかというのをわかるようにしてあり間違いを防止するという手順を入れてございます。
0:04:06	で、左のフローにある通り同士の間違いがないかという確認をいたしました。
0:04:13	で、その後、地震動の過去資料で同士の間違いがあるということを発見いたしました 2020 年 7 月 31 日の第 882 回審査会合A及び 2021 年 7 月 16 日の第 992 回審査会合で報告をさせて、
0:04:31	いただきました。その中でQMSについてしっかり報告するようなことのご指示いただきまして今回ここで整理しております。4 ページ目に移りますが、
0:04:46	2020 年 7 月時点でQMS上の是正処置登録というのを行っていなかったことから今回改めて、CR登録いたしまして是正措置プロジェクト切にて管理することいたしました。
0:04:59	今後審査資料のまとめの段階に入っていくことからちょっとの品質確認体制を機能させるとともに、万一間違いを発見した親しっかりPDCAをまわし正しい資料の作成に努めて参ります。下にフロー書いてございます。資料作成承認プロセスにおきましては、今回の
0:05:16	間違い最終データの途中経過のデータの混在というのを中段にございますチェック 1-2 というプロセスを組み込みましたので、このフローでしっかりと管理をしつつ、是正措置プロセスにも取り入れまして右側にありますように、
0:05:34	もし是正措置が必要というところが、ためすればCR登録した上でしっかりと是正措置プロセスを行った上で、改めて資料作成承認プロセスに反映していくという流れに載せてございます。
0:05:51	最後 5 ページ目です。今回のデータのハッチあり間違い事象は 2 時データの作成ミスについて改めて発生事象原因究明と対策について確認を行った結

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	果、過去分の資料に対する確認を含めた是正措置を実施しており現状品質保証体制が構築されていると。
0:06:09	考えてございます。一方で、2020年7月のデータはりま違いについては是正措置登録を行っていなかったということから改めてCR登録いたしまして是正措置プロセスにて管理することいたしました。
0:06:23	今後審査資料のまとめ段階に入っていることから都度の品質確認達成機能性させるとともに、万一間違いを発見した場合はしっかりPDCAをまわして正しい資料の作成に努めて参りたいと思います。説明は以上になります。
0:06:38	。
0:06:40	はい現象規制庁のサグチですけれども、御説明ありがとうございました。そうしましたらまずこの審査資料の品質確認ついてというところで幾つか確認をさせていただきたいと思います。
0:06:53	まず、
0:06:55	2ページで、
0:06:57	右側に当然フローがあるんですけど、これは、
0:07:01	御社の言う品質確認体制と
0:07:06	いうことで、その改善ということなんですけど、これはもう
0:07:12	以前からされていて、4ページの
0:07:17	ところでは、
0:07:19	チェックの。
0:07:21	①-2とか、こういう今細かいところがちょっと追加されているのかなというところなんですけれども、それプラス、このチェックの④の右側の行くいてる部分っていうのが、
0:07:36	より何て言うんですかね、しっかりとやると。
0:07:41	ということなのか、この右側も含めて、
0:07:45	2ページでされていたことっていうのは引き続きというかずっとコールされていたことなのかっていうのをちょっと確認をさせてください。
0:07:57	中部電力アマンでございます。2ページの1018年6月断面で御報告させていただいたこのフローっていうのはずっと実施してございました。で、4ページは、この2ページにあったフローにさらに今回そのデータを張り間違えたという事象がありますのでここをしっかりと
0:08:18	重点的に対応すべきということでチェック①-2という手順を吸収の中に取り入れましたので、こういった体制につきましては、今まで

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:32	消える登録等をしていなかったということでQMSの中で、どうしても全体の管理に反映できていなかったのではないかとこのところを社内で議論しましてしっかりここOCR登録をして、何か。
0:08:49	トラブルやトラブルというか、こういう間違えるなんかが発生しましたそこを水平展開して、しっかり当資料作成承認プロセスのほうに戻していくと是正措置を戻していくという流れを今回地価登録したということになります。
0:09:09	。
0:09:09	はい、サグチさんのちょっと御説明自体は一応確認はできたんですけど、さらにちょっと確認をさせていただきたいんですけど、基本的にこれ以前面談だったり、前々回のヒアリングっていうのか、でもあったかもしれないんですけど。
0:09:26	御社の言うところのこの資料提出の資料というもの、それから、
0:09:31	将来にもありますけど、審査資料で書かれているのは、現段階では基本的には審査会合資料という理解でよろしいですか。つまり
0:09:45	普段の状況みたいなこういうヒアリングの資料とか、そういうものがここには特に含まれないのかどうかっていう、ちょっと確認をさせてください。
0:10:02	中部電力アマンでございます。すみません。
0:10:05	しっかり書いてございます。いなくて申し訳ございません指定のヒアリングも含めて／審査に諮る資料全般のことを書いております。
0:10:19	はい。規制庁サグチです。そうすると、やっぱりこのヒアリングとか、
0:10:25	のためにいわゆるフローを回すというのか、そういう理解でよろしいですかね。
0:10:34	名ナカムラでございます。左側の試料作製承認プロセスはヒアリングのために、自立今まわしてございます。
0:10:43	はい、規制庁サグチです。わかりました。そう。そうすることなんですけど、ちょっと1点。
0:10:53	何といたしますかね。
0:10:54	本当にこれでいいのかどうかって言うので。さっきの2ページでも4ページでもいいんですけど。
0:11:05	承認プロセスはあるんですけどもしその後に何かあった場合、
0:11:11	例えばここで言うと資料の承認があって、そこからさらにPDF化印刷というプロセスがあってそこから提出があるんですね、
0:11:20	ちょっと、昨年11月ごろだったと思うんですけど、ヒアリングのときに、実はPPそのPDF化された電子媒体と印刷物の内容が違ってたっていうのが実はありましたよね。ああいう何かチェックみたいなものって。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:38	どっかに入るのかそれともそこまでは特に必要なのかっていう今損なった資料のどこの部分に入るのかなっていうのをちょっと教えてください。
0:11:50	中部電力アマンでございますが、
0:11:53	すみません、実際は私のほうでPDF化印刷した後に正しくないみたいになっていないかというのをチェックするというルーチンは基本的にはしている、おります特にこないだの間違いのときは、
0:12:10	前日ぐらいであったので、埋もれてしまったところがあるんですけど、提出前にPDFがそのバグが起きていないか、或いは印刷物が天神なんてたり落丁欄長がないかというところまでのチェックはしていますのでちょっとそこがわかるように
0:12:29	追記させていただきたいと思います。
0:12:33	規制庁サグチです。わかりましたのでは実際にはそういうチェックはされていってただ今資料上はそういう例が書かれていないとかわからないので、ちょっと今確認をさせていただいたんですけどその項目は何かこう、
0:12:48	追加されるということで一応理解はいたしました。
0:12:54	とりあえずすみません中部ミウラアマンでございます。4 ページの一応長い資料提出するとともに、ちっちゃくはPDFのバグとか書いてるんですけどちょっとこれだとさ、承認プロセスに入っていないのでそこはもう少しとわかるように適正化させていただきます。
0:13:12	はい、規制庁昨日わかりましたのでよろしく願いいたします。とりあえず私からは以上です。
0:13:22	規制庁の後ですけれども、4 ページがこれ今まわしてるやつだってことなんですけれども、追跡性措置が必要かどうかという判断がチェックの 4 というか悲観チーム側方のチェックでしか出てないんですけど。
0:13:42	実際 5 本なんですか。
0:13:47	セルフチェックを防いチームがセルフチェックをして、シニアスタッフ 5 これビジネス足りなくなっって言ったやつとかは、
0:14:04	PDCA万ないんですか。
0:14:08	中部目玉でございます。この 4 ページでいきますと、シニアスタッフ等品質管理チーム両方ですね技術的にエビデンスが足りないんじゃないのかとか、品質管理チームとしては、実際
0:14:23	誤記なんかも含めて妥当性を含めて両方チェックをしたどちらから出た場合でも是正措置が必要と判断すればCR登録しますということでこの境界に線を引かせていただいているんですが、ちょっと

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:39	わかりにくいので、どちらであろうが、そこで是正措置が必要という判断が出た場合は、CR登録していくという流れで考えてございますので、ちょっとここも書き方わかるように、
0:14:54	修正させていただきたいと思います。
0:15:05	規制庁側ですけど、今の説明とチェックさんとチェック4で是正措置が必要なものはpcm回すようなシェル登録してますということで、
0:15:18	ですよねそうすると審査チームはこれで十分だと思って、その上で、
0:15:26	あと審査チーム内のやつについてはCR登録はしないってことですね。
0:15:35	中部電力アマンです。投資そうですね審査チーム内のところっていうのは、実際機微に作りながらここ間違っってここ直してっていうのをグルグルまわしておりました値を彼らとして日セルフチェックが全部終わったという断面から、
0:15:53	時にはスタッフと品質管理チームにチェックを川里の目線というかですね、これ対応しているのここ出てきたものっていうのは、やはり重要であろうという判断で今は入れさせていただいております。
0:17:11	規制庁サグチですけども、ちょっともう1点だけ、最後のまとめのところ、
0:17:19	最初ですかね、過去分の資料に対する確認を含めた是正処置を実施しており、
0:17:28	現状品質保証体制は構築されていると考えている。
0:17:34	っていうのと、
0:17:36	一番最後の今後審査資料のまとめ段階に入っていこうと。からっていうのがあるんですけど。
0:17:43	少なくともこれまで提出されているところに審査会合の資料については、
0:17:51	何かチェックはすべて終わっているっていうふうに理解して、要員でしょうかというのと、
0:17:59	だからといって例えば小さいっていうか、誤記とかそういうのは当然あったりなんかするんですけど、そういうのも含めて、一番最後のこの万一間違いを発見したってこの万一間違いっていうのはどの程度のものと考えられて、
0:18:17	いるのかって言うもしチェックが進んでいるんだったら大きいその評価評価結果の違いとかそういうものはちゃんともう確認済み。
0:18:27	だと思うんですけど、そういう理解でよろしいんですかね。
0:18:32	中部電力アマンでございます。サグチさんのご理解の通りで私どもとしては、特に今回あったはり間違いっていうのが多くって、当然、
0:18:43	疑似データ等々での、委託先から出てくるのもしっかりチェックしてますし、最後、それを資料化する際に起きているということで、個々の事象については、今、例えば地震のまとめの段階ですべて総ざらい

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:00	チェックをした結果が今回出てきているということで、
0:19:04	今お出ししている中に私たちとしてその動きを除きますが、間違いはないというふうにチェックをしているところですね、最後にその範囲については、ちょっとまだ、当然、私たちが発見してないような、万が一間違いが今日この時点で、
0:19:23	ないかって言われてないと思っているんですけど、申し出たときに、
0:19:29	違うんじゃないかっていうところのエクスキューズで書かせていただいているというものでして、今はすべてこの体制で間違いはないというふうに確認をさせていただきます。
0:19:45	規制庁サグチです。一応御説明はわかりましたのでなので。この前さ、最終の間違いのご報告っていうのを持って、少なくともその評価に関わる
0:19:59	間違いだったりとかそういうものは一応、
0:20:03	現時点ではもうほかにはないという。
0:20:06	一応チェック済みっていう御説明だったと思うので、それについては一応わかりました、ありがとうございます。
0:20:18	規制庁なのですが、ページの猫のまとめの書き方がよくわからないんだけど。
0:20:25	一つ目のポツがね対策確認を行った結果、株主に対する確認も含めて是正措置を実施しており、現状品質保証体制を構築されていると考え、
0:20:36	前半で言ってるのは是正措置を実施し、ここの資料を含めて確認を含む是正する実施しているころ資料の品質が宇和確保されているっていうんだったらわかるんだけど。
0:20:50	ここのものを含めてチェックを終えたので、品質保証体制を構築されている。
0:20:56	というのは、
0:20:59	何か違和感があるんですけども。
0:21:02	中部電力アマンでございますナイトウさんのおっしゃる通り、ちょっと日本語を適正化させていただきますと僕もさっき説明して定着化、自分で作りながら違和感変えましたので、おっしゃる通りで、今お出ししているものっていうのは、資料いただくのに
0:21:21	足り得るだけの品質をちゃんと確保しましたということをお伝えしたいところですね、少し適正化させてください。
0:21:30	傾斜ですので、そういうことですよ資料。
0:21:34	は全部マンパワーかけて全部チェックしたので等必要な品質が確保できていることを確認しました。
0:21:43	敦賀 1 個目低で 2 ポツで言っているのは、データ梁間違いがあったことを踏まえると、是正措置ということのCr登録とかしていなかったもので、品質保証体制としてはまだ十分じゃなかったんだけどここは新たにそれを取り込んで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:01	やったので等を起こした事象に対する是正措置は、このさ、THAI反映した品質保証体制が構築されている。
0:22:12	ということをお願いってことですか。
0:22:16	中部電力アマンでございます。おっしゃる通りですすいません適切な業務をありがとうございます。ちょっとしっかり直します。
0:22:29	ってことですよねとアマン基地まですべてその3ポツの今後をこれも経営と今後の特に地震の何かコンマ全体まとめる形で入っていくので、往々集う品質をチェックしつつ、必要なものを是正措置として、
0:22:47	まわしていくことによって、PDCをまわしてし、間違いのない資料作成に努めるっていうことをお願い。
0:23:01	って理解でいいですか。
0:23:04	中部電力アマンでございます。おっしゃるおっしゃる通りです。ちょっと一応起きるってところのFスケールが変な入り方をしているので、こうも修正させてください。
0:23:19	規制庁後はいいたいことは理解しましたが、1とねなんか
0:23:29	死ぬん誤記等の有無まで含めてね全部CR登録してくって話をされているんだけど、我々、
0:23:37	審査会合を終了を求めているのは誤記とかがないものを求めているわけじゃなくて、技術的に必要なエビデンスがあってそのデータに基づいて技術的に技術的に科学的に妥当な
0:23:57	フローを導いているという。
0:24:00	資料出していただいてそれに基づいていい規制があったとする事業者さんのあれなんか。
0:24:09	との間で、
0:24:11	オオイ点が得られるように議論をするための資料が審査会合資料ですので、
0:24:21	決して誤記がないとか、そういうことを求めているわけじゃなくて、エビデンスがきちんとあってそれに基づいてきちんと議論ができる技術的な議論ができるような資料を
0:24:37	が提出されるような品質保証をお願いしたいということですので、あんまり
0:24:43	誤記とかその辺まで含めてやってしまうと不ほとんどフルスペックに近くなってしまってそこまでは求めていないということはちょっと理解をしいてください。
0:24:54	中部電力アマンでございます。はい。ちょっとナイトウさんにそういった御説明いただいておりますのでそこは理解しているつもりですので、ちょっとそこが綺麗に反映できてない部分を少し修正させていただいて、しっかり私どもが技術的に

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:12	品質保証確認したもので審査いただいて同じような土俵の上で、技術的な議論ができるというものを仕上げていくというところがわかるような形に修正させていただきます。
0:25:37	はい。規制庁サグチですが過去の
0:25:41	審査資料に品質確認については幾つか反応確認させていただいて、記載の適正化だったり、アマノ修正という言葉もありましたけど、
0:25:52	これらのしていただければと思いますので、
0:25:56	引き続き、
0:26:00	当然ですけれども、これ次回の会合のときには会合資料として出していただいて、きちんと御説明していただければと思いますので、そこはよろしくお願いたします。
0:26:11	引き続きですね。
0:26:13	すいませんよろしい。どうぞ。
0:26:16	ハッチングでナガマツ承知いたしました。はい。
0:26:19	規制庁サグチですけど。そうしましたら、引き続きですね、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動に関わるコメント回答等について御説明をお願いいたします。
0:26:32	はい、中部電力アマノでございます。
0:26:35	第 992 回の審査会合で、いただきましたコメントについて整理して資料化して参りましたので、御説明をさせていただきますと思いますので、合わせて前回第 1020 回で、
0:26:54	津波の審査会合でコメントいただきましてつまり通るの話も追加で資料を提出させていただきましたのであわせてこちらも御説明をさせていただきますと思います。ちょっと資料の量が多いのでお時間
0:27:09	1 時間弱はいただくかなと思いますがよろしくお願いたします。
0:27:25	はい。
0:27:27	中部電力の石川ですよろしくお願いたします。
0:27:32	特定指定については資料がコメント回答資料が厚いものと括弧そのとかいった薄いものを用意しております。
0:27:42	そのあとまとめ資料のほうとして本編と補足説明資料の①から③のほうを説明。
0:27:49	オオイ属一定させていただきます。
0:27:54	まずはコメント回答と資料について説明していきます。
0:27:59	熱いほうからにあります。
0:28:03	1 ページに 992 回の会合でのコメントと回答概要を示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:08	No.1 は赤いプレート内地震の増幅の地震動評価における安全側に増幅方向も背景も増加する地震動評価について、特定しての段階で当初申請時の基準地震動SDとを比較対象とするのは適切ではないと。
0:28:25	資料を見ると、壁が地震の評価結果は他のタイプを一部周期滞留上回るものがあるので、すべての震源モデルに対して、増幅方向の背景も増幅させる評価を評価結果を採用していただきたいとのコメントで、
0:28:38	こちらコメントにあるように対応することとしまして今回その結果を説明します。
0:28:44	あの場にはプレート間地震の問題通る 2000 人以外の距離減衰式による適用範囲外の地震動評価結果に関する検討と、レベル感地震のfmaxの影響検討をに関する検討について、特定指定の段階で当初申請時のS & Pを比較対象とするのは適切ではない。この段階での
0:29:04	検討の位置付けを明確にすることとのコメントで、この対応としてこれらの評価については適用範囲は観測記録との整合性の観点から特定しての評価ケースはしませんが、参考として評価を行ったものであることを説明します。
0:29:21	レノボさんは御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震の断層モデル法による評価結果に関する検討について、特に長周期体影響が大きなプレート間地震の各計画震源モデルの評価結果と比較しているが、不確かさを考慮した評価もござい再度検討して説明することのコメントで、
0:29:40	この対応として、周期 2 秒以上の余裕は召集が大きい当該地震を聴取期待に着目した検討地震として選定して不確かさを考慮した地震動評価も行った結果を説明します。
0:29:54	1 ページ飛びまして 3 ページに目次を示しております。順番に説明していきます。
0:30:01	まず 4 ページから増幅方向の背景を増幅させる通うプレート内地震の地震動評価に係るコメント回答について提出。
0:30:12	ページ 1 ページ飛びまして 6 ページに概要を示しております。
0:30:16	940 回の会合では増加の検討地震につきまして、保守的な評価を行うことを実際に凍るされた補正の確認の結果は増幅方向の背景領域による影響の確認結果を説明しました。
0:30:30	これに対しまして、コメントありましたので準地震動に選定される可能性のある三つのモデルを対象に廃墟増幅させた評価を行い、これを採用することを説明いたしましたが、992 回の会合でさらなるコメントありましたので、
0:30:46	今回対応しております。
0:30:48	これまで説明してきた通り増加の評価結果は廃棄を増幅させるさせたようにかかわらず、十分保守的な評価結果と考えられますが、コメント踏まえまして、海

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	洋プレート内地震の評価結果については、より慎重に非保守的な評価を行い、
0:31:04	すべての震源モデルに対して、増幅方向で背景を増加させる評価結果を採用することとし、
0:31:11	今回戦の結果をお示しします。
0:31:15	7 ページからは詳細説明になりますが、1-1 と 1-2 は、基本的に変更ありませんので飛んで 37 ページをお願いします。
0:31:33	37 ページからの 1-3 はコメント回答になります。1 ページめくっていただきまして、38 ページにこれまで説明しておりますコメントとコメントを踏まえた対応をコメントを踏まえた地震動評価を 1 枚にまとめて示しております、
0:31:50	具体的な地震動評価は 39 ページからになります。
0:31:55	まずは基本震源モデルの場合ですが、39 ページはモデル図で左側が従来意味が増幅方向の背景を増幅させる場合になります。
0:32:06	40 ページはパラメータ表でこちら二つのモデル共通になっております。
0:32:12	41 ページは時刻歴はっきりの比較で上の黒線が従来下の赤線が増幅方向の廃棄を増幅させる場合で、
0:32:21	どういう凡例で 42 ページに応答スペクトルの比較図を示しております。
0:32:28	48 ページ以降には、43 ページ以降には、同様に、残りのすべての震源モデルについても全然モデル図から評価結果を示しておりますので、という御確認ください。
0:32:42	飛んで 67 ページにまとめを示しております。
0:32:54	これ、こちらこれまで説明しているものを抜粋しておりますけれども、こちらのページを特定してのまとめの本編に掲載することで、このコメント回答を特定してのまとめに反映する形としております。
0:33:08	こちらの説明は以上です。
0:33:11	続いて 68 ページからナンバー2-5 弁と回答のうち、ノダ以外の距離減衰式による評価結果についてです。
0:33:21	また飛んでいただきまして 75 ページをお願いします。
0:33:30	ここでは適用範囲外となるものを表に示す、ノダ以外の距離減衰式を用いてプレート間地震の評価を行った結果を参考としてお示ししまして、
0:33:41	992 回の会合では、念のため、特定しての地震動として、各地震動タイプの応答スペクトル法による評価結果と当初申請時の S_s は D との比較を行い、平成 3D に包絡されることを説明しておりましたが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:56	ナンバー今コメントありましたので今回その比較取り止めまして 100 億においてへの在外の距離減衰式についてはデータベースの適用範囲外となるため、特定しての評価ケースはしないと。
0:34:09	さらに参考として今回評価を行ったというふうな位置付けを明確にしております。
0:34:18	1 ページ飛んで続いて 77 ページからは、No.2 コメント回答のうちfmaxの影響検討に関わる部分です。
0:34:27	PODでページ飛んでいただいて 86 ページになります。
0:34:39	ここでは、レシピに記載されたfmax13.5Hzにつきまして、本来は観測記録を再現可能なQ値と組み合わせて用いるべきところを参考として観測記録と乖離するものを従来のQ値 100f0.7 条と組み合わせた評価結果をお示しし、
0:34:57	992 回の会合では念のため、先ほどと同様の比較を行いまして、S&Dに包絡されることを確認した旨説明しておりましたが、こちらナンバー2 のコメント対応として比較のほうは取り止めまして、
0:35:12	800 において観測記録と乖離するこちらのケースについては特定しての評価ケースとはしないが、参考として評価を行ったという位置付けを明確にしております。
0:35:23	以上がNo.2 のコメント回答です。
0:35:27	1 ページ飛んで 88 ページからが大間崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震の地震動評価に係るナンバー3 のコメント回答についてです。
0:35:39	1 ページ飛んでいただきまして 90 ページからまず海洋プレート内地震の検討地震の選定について説明をしていきます。
0:35:49	91 ページに検討用地震の選定フローを示しますというこちら過去資料修正したものですけれども、まず上段箱書きに示す通り、フィリピンからプレートで発生した海洋プレート内地震について整理を行いました。
0:36:04	次に中段に示す通り、二つの地震を想定しました。具体的にはフィリピン海洋プレートで発生する海洋プレート内地震や類似したプレートの検討を踏まえまして、
0:36:15	断層位置をあらかじめ特定することが困難と考えて沈み込んだ浅い海洋プレート内地震として敷地下方の想定スラブ内地震、トラフ軸付近の沈み込む海洋β地震として御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震を
0:36:31	それぞれ敷地に近い位置に想定しました。
0:36:35	この事務につきまして、一番下に示す通り引きNodaによる評価結果を比較し、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:40	施設の仕様書期待を含む周期 2 秒以下では敷地下方の想定スラブ内地震の ほうが大きいことから、これを検討用地震として選定しました。
0:36:50	これは従来通りですけれども、それ以降が変更点となりまして、
0:36:54	また周期 2 秒以上のやや長周期では御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート 内地震のほうが大きいことから、長周期に着目した検討用地震として、この自 身も現調地震に選定するとしております。
0:37:11	92 ページ以降が、今説明したフローの詳細説明になります既往報告について は割愛しながらざっと説明していきます。
0:37:20	まずは調査として、92 ページにフィリピン海洋プレートで発生した海洋プレート 内地震の種類を示しあわせてそれらを代表的な地震を示しております。
0:37:32	93 ページは被害地震です。表でお示する三つの地震が海洋プレート内地震 の被害地震になります。
0:37:40	94 ページには敷地周辺で発生した地震について歴史地震と、近年発生したも の自身はあわせてお示します。
0:37:50	95 ページ 96 ページは合わせ積み込んで火曜日の地震の代表的な地震であ る 2009 年駿河湾の地震についての資料を再掲しております。
0:38:01	一方 97 ページからは沈み込む海洋プレート内地震の代表的な地震である 2004 年伊半島南東沖の地震についての資料をお示しております。
0:38:13	吐くわけですけれども 2004 年の地震は紀伊半島の南東約 100km のオオイ 地の南海トラフ沿いのトラフ軸付近で発生した海洋プレート内地震であり、
0:38:23	表にも求めておりますけれども、地震モーメントはパークアンドモリモト及び 癒し地震カノートがインバージョン解析により求めているほか、気象庁や防災 科研のホームページでも示されておまして、
0:38:35	モーメントは約 1.7×10^{20} 条をからにくく 2.1×10^{20} 小児止めた。
0:38:44	Mw 踏査. 4 から 7.5 となっております。
0:38:50	98 ページはパークアンドモリモトによる知見です。/ 今度モリモトは 2004 年の 地震につきましては経営インバージョン解析からは図表に示す通り、断層形状 や滑り分布等求めておまして、
0:39:03	二つ目の丸に記載されて通り閉各パラメーターが求められております。
0:39:10	99 ページは短周期に着目した知見として、芝佐藤 2007 棟いけた 2005 の知 見を示しております。
0:39:19	主なところを読み上げますけれども芝佐藤 2007 では 3 行目の最後のところか ら形状も 2004 年の地震を含む地震群の震源における公衆カワチ地震履歴特 性は日本の内陸で体育地震における平均的なレベルで評価することができる としています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:37	跨ぎけど 2005 では 2004 年の地震につきまして、ストレスパラメーターはあの地域で発生した大規模スラブ内地震に比べて小さいレベルにあることは逆になったとし、
0:39:48	また求められたM0A関係は壇ほか 2001 と同程度となっております。
0:39:56	このように研究がなされております 2004 年の地震につきまして、100 ページから震源モデルを設定して地震動評価を行い、敷地における観測記録の再現シミュレーションを行いました。
0:40:09	二つ目の前に示す通り、震源モデルの断層パラメータは主にパークアンドモリモトによる派遣インバージョン解析結果に基づき設定することとしまして、
0:40:19	ただ衝撃特性については、知見を踏まえて、残丘によるMする関係に基づき設定しております。
0:40:27	101 ページが設定したモデルの再掲で 102 ページがパラメータの設定フロー 103 ページがパラメータ表です。
0:40:37	104 ページに結果比較を示しますが、赤で示す地震動評価結果が青で示して観測記録を概ね再現しております。
0:40:48	ここで 105 ページですけれども、契約 92 回の会合で示したシミュレーションでは破壊伝播速度Gellerに基づく 0.72β 値率 2.5kmメートルパーセカンドで設置しておりましたが、今回アカウントモリモトに基づき、破壊伝播速度 2.0 に変更しております。
0:41:07	敷地における再現シミュレーションについての比較は下に示す通りとなっております、方は先ほどと同様で緑がきらにに基づき、破壊伝播速度を設定した場合の結果となっております。
0:41:23	替わって 106 ページから各震源各層で地震の規模の設定についてJC106 ページは沈み込んだ浅い海洋プレート内地震の場合で、こちらは従来から説明してきておりますが、左に示す通り、南海トラフ沿いのフィリピン海洋プレートで発生した。
0:41:41	沈み込んだ地震の最大規模のか。
0:41:44	当該ページの特徴が当該プレート等特徴が類似した海洋プレートで発生した地震の最大規模や地震発生層の地域性を考慮した地震規模の想定も踏まえて、規模をM7.0 等設定します。
0:41:59	一方 107 ページは、トラフ軸付近の沈み込む海洋プレート内地震についてです。
0:42:05	詳細は後程説明しますが、御説明見込んだと同様に検討しまして、M7.4 と設定します。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:12	動きを一つ目の丸ですが、敷地周辺のトラフ軸より沖合ではアウターライズ地震も含めて、規模の大きな地震が発生しておりませんが、
0:42:21	実断層系が分布していることから、敷地に影響を検討して敷地の近くに想定するトラフ軸付近の沈み込む海洋プレート内地震の代表性を確認します。
0:42:34	108 ページから設備後部の地震規模の設定根拠をオオイ件一葉で示しております。
0:42:41	108 ページはフィリピンカーペットのトラフ軸付近で発生した地震の最大規模についてで 2004 年の紀伊半島南東沖の地震がM7.4 は最大規模となっております。
0:42:53	109 ページは特徴が比較的類似するCascadia沈み交通みたいに沈み込むファンで負荷プレートで発生した地震の規模についてで、
0:43:02	海溝軸付近では発生した地震の規模はM6.9 となっております。
0:43:08	110 ページは地震発生層の地域性を考慮した地震規模の想定についてです。
0:43:14	日本海溝沿いで発生した地震のJA海溝軸付近の最大規模はM7.3、海溝軸より沖合での最大規模はM8. 深層となっております。
0:43:25	これに地震発生層の幅の地域性を地震モーメントと断層幅のスケーリング則に基づき考慮いたしますと、太平洋プレートというのは今 8.1 の地震というのはフィリピン回ペースでのM7.4 の地震等々化となります。
0:43:40	以上を踏まえて、沈み込む海洋プレート内地震の地震規模としてはM7 転用を設定しました。
0:43:49	以上を踏まえ 111 ページの図に示す通り二つの地震を想定して比較を行い、現状地震を選定いたします。
0:44:00	敷地下方の想定スラブ内地震のほうについては、海洋プレート内地震の断層位置をあらかじめ特定することが困難と考えまして、安全評価上、震源断層位置を敷地に近づけることを前提とした震源断層は敷地の下方に想定して規模は 7.0 としております。
0:44:17	一方御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震については、同様な考え方で震源断層は、トラフ軸沿いの敷地に最も近い位置に想定して規模は 7.4 といたします。
0:44:29	エイジスの掃気による影響については後程代表性を確認します。
0:44:35	112 ページに大間崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震の想定について示します。
0:44:42	この地震は 2004 年紀伊半島南東沖の地震がトラフ軸付近で発生したことを踏まえまして、敷地から最も近くなるようを左の図に示すように計画 2010 における駿河湾沖のトラフ軸沿いに配置します。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:57	震源断層の上端は 2004 年の地震の余震分布やノードモリモトを踏まえて設定した震源モデルに基づき深さ 6km のプレート境界目を震源断層の上端としまして、
0:45:09	長さ 80km 幅は 30km、傾斜角 40km の震源断層面を想定します。
0:45:17	113 ページは二つの想定地震のオオノ大統領の適用性検討の再掲で 114 ページは補正係数を再掲して示します。
0:45:28	ここで 115 ページからは沈み込む海洋プレート内地震の代表性確認についてです。
0:45:35	過去の会合で説明したものを再校正したものですけれども、ここでは、下の図に示す通り、断層長さ 125.8km と評価した銭洲断層系につきまして、Noda の方法による評価の比較を行い、御前崎沖の想定地震で代表できることを確認します。
0:45:54	116 ページに早速モデルとオオノの評価結果の比較を示します。
0:46:00	緑が御前崎沖の想定地震にオレンジが前日断層系による地震となっております、2 断層系による地震の規模等は、スケーリング則から設定しています。
0:46:11	この応答スペクトルの比較によりますと、緑で示す御前崎沖の想定地震のほうが大きいことから、ぜひ産総研による地震の評価は御前崎沖の想定地震で代表することとします。
0:46:26	最後 100 から 117 ページに健常地震の選定結果を示しますレポートフローで説明した通り、従来通り御前崎いい敷地下方の想定スラブ内地震を選定し、
0:46:37	また周期 2 秒以上のは長周期でレベルの大きい御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震をで長周期体に着目した検討用地震として採用することとします。
0:46:53	ここまでは遅くなしについてでしたけれども 118 ページには増幅ありの検討地震の選定について示します。
0:47:02	具体的には、これまで説明してきております上段の敷地における地盤地震動の増幅特性等を増加の地震動評価の方針を踏まえまして、
0:47:12	下段に示す通り増幅なしの検討地震のうち敷地下方の想定スラブ内地震の震源断層を増幅方向に移動させて映像代替りの検討地震としても選定します。
0:47:25	地震動の顕著な増幅は破綻周期の特定の周期体で見られることを踏まえまして、長周期体に着目して検討地震とした御前崎沖の想定地震につきましては、堅調な増幅が見られる周期体において地震動レベルが大きい。
0:47:40	敷地下方の想定、すいません、こちらは誤記ですけれども敷地下方の想定スラブ内地震のほうで代表することといたします。
0:47:52	以上が健聴地震の選定についてです。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:58	1 ページ飛びまして、続いて 120 ページから追加した御前崎沖の想定地震の地震動評価についてです。
0:48:08	まず 121 ページから基本震源モデルの設定についてです。
0:48:14	この指針の設定方針ですけれども、長周期に着目する検討用地震として断層モデル法による地震動評価を重視することとし、ノ感度もによる滑り分布等を参考として敷地に影響が最も伊方最大規模の沈み込む海洋プレート内地震であり、
0:48:31	ある 2004 年紀伊半島南東沖の地震の震源特性を反映します。
0:48:37	各震源断層パラメータにつきまして、地震規模はM7.4 として、断層モデル法で用いる地震規模はパークアンドモリモトに基づき、他の知見より保守的なこちらに記載しております値を設定します。
0:48:52	震源断層の位置から傾斜角につきましては検討地震の選定の設定と同じです。
0:48:59	強震動生成席の数形状位置につきましては、パークアンドモリモトの滑り分布という絵に基づき、強震動生成域の面積を設定して数は一つ形状長方形として、震源断層の上端に設定します。
0:49:15	強震動生成域の応力降下量は壇ほかに基づき設定し、破壊伝播速度がパークアンドモリモトに基づく 2.0
0:49:23	として設定します。破壊開始点は破壊の伝播方向が敷地に向かうよう複数設定します。
0:49:32	122 ページの震源断層の位置、説明資料になりますけれども、こちらは検討地震の選定の際の説明と一緒にになります。
0:49:41	113 ページは、震源断層パラメータの設定について実施するかをこちら先ほど説明した内容となります。
0:49:51	124 ページはパラメーターの設定フローを 125 ページはモデル図で 126 ページがパラメータ表となります。
0:50:01	ここで 127 ページからは基本震源モデルの代表性に関しまして、敷地の長周期地震動に断層破壊過程が質及生協確認するため強震動生成域の形状や断層位置を変更したケーススタディモデル①から③を設定して、
0:50:18	今日震源モデルとの比較を行いますと、
0:50:22	映像示しておりますけどもケーススタディモデル①は、基本震源モデルに対して強震動生成域の形状を長方形から正方形に変更したモデルです。
0:50:31	②は②は、震源断層や南方に移動して配置したモデルで皆さんは①と②を組み合わせたモデルです。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:42	これにつきまして発生積分法による評価結果評価結果の比較を行った結果、下段に記載しているように、評価結果はいずれのケーススタディモデルも基本震源モデルと同程度以下であり、強震動生成域の形状や、断層位置の不確かさを踏まえても、基本震源モデル代表性を書く。
0:51:01	基本震源モデルで代表できることを確認しました。
0:51:05	しかしながら③につきましては、概ね基準地震ただ基本震源モデルで代表できるものの応答スペクトルのごく一部の周期 0 若干レベルが大きいことを踏まえまして、これを断層位置及び強震動生成域の形状の不確かさを考慮した震源モデルとし、
0:51:23	ほかの不確かさとの重畳も考慮することとしております。
0:51:30	具体的な説明が 128 ページからになります。まずケーススタディモデル①との比較ですが、
0:51:38	129 ページが時刻歴はつきりJA上の黒線崖を震源モデル、下の赤線が、ケーススタディモデル①です。
0:51:48	130 ページが同じ凡例で応答スペクトルの比較を示しております。こちらによりますと、ケーススタディモデル①の地震動レベルは、基本震源モデルと同程度以下となっており、基本震源モデルの代表性を確認しました。
0:52:04	同様に 131 ページからケーススタディモデル②との比較で 132 ページが時刻歴、133 ページが応答スペクトルの比較でありまして、
0:52:14	両者同程度以下となっていることから、基本震源モデルの代表性を確認しました。
0:52:21	134 ページからはケーススタディモデル③との比較でF35 ページが時刻歴は計 136 ページが応答スペクトルの比較となっております。
0:52:33	こちらは先ほど説明した通り、③の地震動レベルは、基本震源モデルと同程度となっておりますが、UD方向の朝食で長周期体におきまして、基本震源モデルよりも若干レベル大きくなっていることから、この③を震源だああ断層位置及び強震動生成域の形状の不確かさを
0:52:53	こうした震源モデルとして、他の不確かさ角を重畳も考慮することとします。
0:53:00	替わって 137 ページからは不確かさを考慮した震源モデルの設定について説明をしていきます。
0:53:07	まずは基本震源モデルに基づく場合です。基本震源モデルには、上段で緑で記載している通り、地震規模を断層位置、強震動生成域の位置、形状を破壊開始点の不確かさをあらかじめ考慮しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:24	不確かさの考慮にあたってに当たりましては、下段に示す通り、長周期体に着目した検討地震として断層モデル法による評価を重視して断層破壊過程が敷地の長周期地震動に及ぼす影響を考慮することとし、
0:53:39	基本震源モデルにあらかじめ考慮した不確かさに加えて破壊伝播速度等を断層傾斜角の不確かさをそれぞれ考慮した地震動評価を行うこととします。
0:53:51	138 ページは震源モデルの一覧です。
0:53:55	139 ページは不確かさを考慮の重畳の考え方について 10 数上段で緑か認識論的紫が偶発的不確かさを表しております。
0:54:07	これらの組み合わせは原則は従来の通りですけれども、下段二つ目の丸に示す通り、地震規模については認識論的な不確かさに分類されるものと考えられるものを基本震源モデルにあらかじめ不確かさを考慮することとしております。
0:54:25	140 ページは不確かさをどうコールのまとめ表を示しております。
0:54:32	141 ページは、破壊伝播速度の不確かさの詳細説明ですが、基本震源モデルではパークアンドモリモトに基づき、2.0kmとして設定してるん対し基本震源が不確かさとしてレシピではGellerの 0.72β が示されていることから、
0:54:49	これに対応する 2.5 号のケースを考慮いたします。
0:54:56	142 ページは断層傾斜角の不確かさについてです。既往震源モデルではパークアンドモリモトに基づき 40° として設定しております。
0:55:06	各知見による 2004 年のを基本と南東沖の地震の断層傾斜角は表に示す通り、教育断層含めて 40 度程度登録 10 程度となっております。
0:55:18	レシピでは断層傾斜角について長期評価はされていない場合には、低角の場合 30° 広角の場合 60° で設定するとされていることを参考に断層傾斜角の不確かさとして 30° と 60° のケースを考慮します。
0:55:36	143 ページからは断層位置及び強震動生成きの形状の不確かさを考慮した震源モデルに基づく場合について、基本震源モデルのモデルと同様の構成で資料をお示しております。
0:55:51	飛んで 147 ページ、148 ページにはこの二つのモデルに基づく場合を合わせてモデル図一覧と不確かさ考慮のまとめの表を示しております。
0:56:05	149 ページから各震源モデルのモデル図とパラメータ表を準備、10 に示しております。
0:56:13	飛んでいただいて 163 ページが、
0:56:27	163 ページ側地震動評価の手法をになります。基本的に他の地震タイプも同じですけれども、応答スペクトルに基づく地震動評価に用いている補正係数に

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	つきましては、2009 年。2004 年 紀伊半島南東沖の地震の観測記録をもちまして、
0:56:46	この地震の震源特性を反映する旨記載しております。
0:56:52	164 ページから応答スペクトルに基づく地震動評価についてです。適用性検討を 165 ページ 166 ページでやっております、
0:57:03	いずれも適応範囲外となることから、すべてどの方向による評価を行います。
0:57:11	先ほど説明した補正係数が 167 ページになっておりまして、これを用いて評価した結果が 168 ページになります。
0:57:21	こちら六つのモデルの結果を重ね描いております。
0:57:27	続いて 169 ページからは、断層モデル法による評価についてです。
0:57:33	169 ページは断層モデルを用いた手法の説明で箱書きはスラブ内地震と同様となっております。
0:57:42	170 ページが予想地震計 171 ページ側は統計的グリーン関数法における代表の選定で、
0:57:50	172 ページからマッチングフィルタ等々接続周期を示しております。
0:57:59	176 ページからモデルごとに加速度速度の時刻歴はつきりと応答スペクトルを示しております。
0:58:08	また飛んでいただいて、200 ページから
0:58:16	御をもとにごとに応答スペクトル法等を断層モデル法の評価結果の比較を順番に示しております。
0:58:29	ほんで最後を 206 ページからまとめになりますけども、206 ページが応答スペクトル法の結果の再掲です。
0:58:39	207 ページが断層モデル法のすべての結果を重ね描いたものになります。
0:58:45	208 ページにはは参考として、同様に長周期が大きい紫で示すプレート間地震との比較を示しております。
0:58:54	不確かさモデルまで含めたすべての結果の比較等になっております。
0:59:00	最後 209 ページに応答スペクトル法と断層モデル法の比較すべての比較を示しております。
0:59:07	続いて 2 のほうの資料をお願いいたします。
0:59:23	その下ですが先ほども説明しましたけども 1020 回の津波の審査会合でのコメントの回答となります。
0:59:33	1 ページにコメント回答概要示しますコメントはフラグ駿河トラフの下に沈み込むフィリピン回プレートの形状に関する新たな知見、松葉られてる 2021 について、地震動を津波津浪評価への影響を示すことというコメントで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:50	対応としては、新たな知見を踏まえても地震動評価で用いている内閣府 2012 の最大クラスの地震の断層モデルは適切なモデルであることを確認しております。
1:00:02	2 ページから詳細に説明していきます。
1:00:05	まず末から説明になります。
1:00:08	集まれと 2021 は陸域の定常観測転倒駿河湾内の臨時会提示した観測点における知ん観測データを活用しまして、東海地域の速度構造を大地震はトモグラフィー法により解析いたしまして、
1:00:24	その速度構造における低速度かつ高 V_p/V_s な海洋地殻の分布、
1:00:30	微小地震の震源分布低角逆断層の地震の分布を考慮して、平均改ページの状面の形状を設定しております。
1:00:40	推定した形状については右の図の通り同じく自身はトモグラフィー法による速度構造等に基づき設定された広瀬タニ 2008 による形状とあわせて図示しております。
1:00:54	太い実線が松原で少し不透明の 8000 円の広瀬になりますけども、この図示しまして、
1:01:02	それがトラフから沈み込むフィリピン回プレートの上層は深さ 20km 程度までの部分が既往のモデルよりももう少し浅くなったとしております。
1:01:12	3 ページいきまして、松村では速度構造の推定にあたって、こちら記載しております期間の陸域の定常観測網のデータと駿河湾内に設置された臨時海底地震計のデータの到達時刻のデータ。
1:01:31	陸域で実施された 4 発の人工地震断層の到達時刻データを用いております、
1:01:37	これらを組み合わせることにより、プレート境界を交差する波線を用いた解析ができるようになり、浅い沈み込み等への形状が明らかになったとしております。
1:01:48	右に示すチェッカーボードテストによりまして、大地震はトモグラフィー法による速度を構造の解析は陸域についてはハ解析の精度が高くて会期は遠州灘沖や御前崎半島周辺では解析精度が低いものの、
1:02:04	臨時海底地震観測化された駿河湾については、陸域と同様に解析精度が高いと考えられます。
1:02:15	一方 4 ページですけども、内閣府 2012 のほうですが、こちらは臨界ペーパーの形状について、形成に平成 20 年度から実施している連動性プロジェクトにおいて探査深度はフィリピン回プレートまで達する多くの地下構造差は実施され、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:35	概ね深さ 20kmから 50kmに至る構造を調査分析した研究成果であったり、広瀬iというのを研究成果を深部低周波地震の分布を踏まえて、プレートの形状を設定しております。
1:02:50	このプレート境界の形状のうち、深さ 10km ²⁹ の当初申請は、この②で示す通り、地下構造探査等に基づき、プレート境界の形状が検討された連動性評価プロジェクトに 2009 に基づき設定されています。
1:03:09	下段にいきまして、浜岡原子力発電所ではこのように内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会において複数の研究成果を踏まえて、プレート境界の形状が設定された内閣 2012 の最大クラスの地震の断層モデル、何かモデル最大クラスの地震を
1:03:29	続いて、地震動評価を行っております。
1:03:35	両者の比較が 5 ページになります。
1:03:39	松丸最新の記録から計上推定して、同様の方法で推計された広瀬の形状と比較を行い、Sラック駿河トラフから沈み込むフィリピン貝ペーストの深さ 20km 程度までが既往のモデルよりも浅く少し浅くなったとしており、
1:03:56	深さ 10kmの等深線は広瀬に対してやや西側に位置しております。
1:04:02	内閣府 2012 のプレート境界の形状のほうは地下構造探査結果等による連動性評価プロジェクト 2009 に基づき、深さ 1920kmの等深線が設定されており、
1:04:13	右の図の通り、黒で示す深さ 10kmの等深線は緑で示す広瀬よりやや西側に位置しており、最新の記録を用いて推定されたピンクで示す松原とよりいい整合的となっております。
1:04:29	また深さ 10km以外の等深線につきましても、内閣 2012 は松原と概ね整合しております。
1:04:37	以上認最新の記録を用いて東海地域の降灰地域のプレート境界の形状を推定した新たな知見である松原イトウ 2021 を踏まえても地震動評価で用いている内閣府 2012 の最大クラスの地震の断層モデルは、
1:04:53	適切なモデルであることを確認しました。
1:04:57	コメント回答と資料の説明は以上になります。
1:05:05	はい。
1:05:06	はい。規制庁サグチですけれども、
1:05:09	御説明ありがとうございます。ちょっと言ったんですね、じゃここでまた確認等させていただきたいと思っておりますけれども、
1:05:19	まず私のほうから、
1:05:23	コメント回答の資料、
1:05:28	のところで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:32	イトウ
1:05:33	全体の方針、一番最初の1ページに書かれてますけど、この報酬については説明自体はわかりましたので、ちょっと細かいところを幾つか確認をさせていただきたいんですけども、
1:05:52	遠くへと。
1:05:56	競合と御説明ありましたけれども、75ページ。
1:06:05	のところで、
1:06:06	今の大通る。
1:06:09	以外のものについては、
1:06:11	いわゆるデータベースの
1:06:13	範囲外になると。
1:06:15	いうところで、これはやっぱり参考程度ですよというものを御説明だけで、ただ、ただこの75ページの下の二つ目の丸って、
1:06:25	これってどういう意味なのかなと思って、各距離減衰式の
1:06:31	地震動評価結果は地震動レベルが大きく異なっている。
1:06:35	ていうのが何を意味されて、こういう記載をされているのがちょっとわからないので教えてください。
1:06:46	はい、中部電力の成田でございます。ちょっとこの二つ目の丸は当時の記載をちょっとそのまま残してしまっているんですが、当時これをなぜ変えたかというんですね、本来適合する式であれば、それぞれどの式を使ってもらいたい地震動レベルっていうのは整合してくるだろうと。
1:07:03	ただ今回はちょっと参考として撤去が担っているんで、そういった意味で地震動レベルが大きく異なっているんでは適用外だから、大きく異なっているという趣旨で、当時記載させていただきました。
1:07:18	はい、サグチです。今のご説明でいわゆるわかったんですけどそうするとちょっとやっぱり言葉足らずですよっていうのと、
1:07:27	ちなみにこれ、結局のところ、地震規模より
1:07:32	この第1弾操作最短距離っていうのがこの式で使われているデータベース
1:07:41	で見るとこれ地下すぎる。
1:07:44	ていうことなんですかねっていうのは、
1:07:51	例えば本店のね、まとめ資料の本編のほうで、
1:07:56	プレート間地震で実際にじゃあ
1:07:59	まとめ資料の約85ページとかでやられてるんですけど。
1:08:03	当然、
1:08:04	M9クラスなんでそんなものを応答スペクトルで

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:09	やれないっていうので。
1:08:11	M。
1:08:13	Mっていうか応答としてやってるわけじゃないですか、ここで、そういう観点でいうと、
1:08:20	例えば同じように、
1:08:24	今対象としてんの一番敷地に近い側の領域なんだけれども、そうじゃなくって、
1:08:33	例えばですよ、例えば東海域
1:08:41	なんか行きなのかな。
1:08:43	とか、そういう例えば組み合わせでやったら実は
1:08:47	このデータベースの範囲内には入ってくるんじゃないかなと。ただしその合意の地震動レベルっていうのはやっぱり小さくなるので、そうすると、
1:08:57	本編でやられているような
1:09:00	Nodaの手法による評価と比べても全然小さくなるのかなというふうに
1:09:06	感じるんですけど、今はあくまでもここでの説明は特にこの大断層最短距離が
1:09:14	結局地下地下すぎるので。
1:09:18	その適用範囲外ですっていうことだけしか入ってないような気がするんですけど。
1:09:24	ちょっとその辺りってどういうふうに考えてらっしゃいます。
1:09:31	はい。10年分ナリタでございます。サグチさんがおっしゃった通りでございます。基本的にNodaイトウ炉は X_{eq} とMJとパラメーターで想定しますので、ある意味 X_{eq} が真穴丸形で適用範囲内にはなってくるんですが、
1:09:47	これをもつてのその他距離減衰に関してはもう $X_{mini}Excess1$ と書いてあるものが身近すぎるので、そもそも適用できませんよと、規模の観点もですねこの当時は当然MWであればその時点で省かれるんですけども。
1:10:03	仮に M_w を適用範囲内にしても、 X 生成時というものが適用範囲外になってしまうので、何をやっても適用できませんという趣旨で説明させていただいておりました。
1:10:17	。
1:10:18	はい。規制庁サービスなので
1:10:21	どちらというかというと、マグニチュードも村長なのかもしれないんですけど、まあ距離っていうことを
1:10:29	考えれば、少なくともその影響の大きいですね、影響の大きいところも距離で考えれば、ちょっと近過ぎちゃってこういう距離減衰式をやっぱり適用範囲外なんです。ただし今一応参考としては、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:42	無理くりですけど一応出して参考としてまでは出してるんですけど、そのレベルってというのは、
1:10:50	そんなに大したことないんですよってそう、そういう理解で
1:10:54	いいんですかね。
1:10:59	中部電力なりというのは、その理解で、その通りでございます。
1:11:03	はい。規制庁サグチですから、そうするとやっぱりちょっとこの 75 ページというのはいろんな意味でちょっと言葉足らずなので、その辺りはちゃんとわかるように記載し方していただきたいと思います。
1:11:17	注ミネルヴァナリタです。了解いたしました。
1:11:22	はい。引き続きちょっと同じような観点で、
1:11:27	コメントのNo.222になるのかな、2の最後のところの 85 ページ 86 ページ、86 ページなんですけど、85 ページは大体同じぐらいですよってというのはわかるんですけど。
1:11:40	86 ページでこれもですねまたおんなじように、
1:11:44	二つ目の丸で検討ケース①の地震動レベルは短周期側で従来ケースに比べ過大評価となっていると。
1:11:53	いうその従来ケースに比べて過大評価になっているから満々だというのがちょっとよくわかんなくて別に過大評価ってなっても、保守的な評価だっていう言い方もできると思うんですよ、その辺りだから、もうちょっとどういことが言いたいのかっていうのをちょっと御説明いただけます。
1:12:14	中部電力なるってございます。
1:12:56	溢水申し上げられません。今場面ほうか。
1:13:00	規制庁さんの説明も大丈夫です。戻りました。
1:13:04	ありがとうございます。
1:13:08	84 ページの 5 とご覧いただければと思うんですけども、基本的には観測記録との検証という観点でずっと
1:13:17	当方こちらはこれどこになるということでございます。ファックス 6Hzに対しても核的など想定すれば、或いは安定ブロックに整合する妥当な結果が得られるという形をさせていただいております、
1:13:32	その 80 億ND目ですかね、これがいわゆる従来件数弁償策定する中で僕になつてるとということで工程も楽しい結果をどう設定できなかったという趣旨で記載させていただいておりますので、その他でも先ほどのコメントの通りですね、例えば適切だと思います。
1:13:54	規制庁サグチです。ちょっとすみません

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:57	内容は理解できたんですけど、結構音声も今飛び飛びだったんで、もう1回ちょっと接続、
1:14:05	確認してもらってよろしいですかね。ちなみに東京支社の方は今どんな感じですか。
1:14:15	東京水道ですが、先ほど規制庁さんが音声をテレビ映像がございまして、すぐぱっかりしてみてる状態になってます。
1:14:29	はい。規制庁サグチです。実は、こちらは先ほどですね東京支社がさんのほうはそのまま継続して、
1:14:37	大丈夫だったんですけど、本社さんのほうがちょっと何か途切れて落ちたっていう感じだったんですけど、うちの問題からちょっとこちらも、
1:14:48	ちょっと確認しますとすみませんちょっとお待ちください。
1:14:58	。
1:15:00	規制庁サグチですちなみにこちら今ビデオとかカメラを通したんですけど、音声の方。
1:15:07	どんな感じでしょうか東京支社とそれから本社。
1:15:12	両方お願いします。
1:15:16	桑川でございます。私の抗力を入れます。
1:15:21	鉄塔基数割れさんの御て聞こえてます。
1:15:25	規制庁サグチですわかりました。ただ、やはりすみません
1:15:30	東京も名古屋も両方ともなんか音声が微妙に飛び飛びになっちゃうので、こちらの問題なんですかねちょっとごめんなさい名古屋の方も、
1:15:41	音声を通していただいてよろしいですかね。
1:15:45	その後皆さんカメラビデオですね、すみません。
1:15:49	。
1:15:50	規制庁サグチで済むかちょっと確認させていただきますこちらからの声は
1:15:56	特に飛びレート儀礼にならなくて大丈夫でしょうか。
1:16:02	訓練の幹部のです。
1:16:04	これっております。
1:16:06	私のこれは普通に聞こえてるんでしょうか。
1:16:09	規制庁サグチすみませんちょっとやっぱり途切れ途切れになるので、
1:16:15	ちょっとこちらでもうちょっとさ、再起動とかそういう
1:16:21	ちょっとすみません一度こちらあの再起動させていただきますので、また引き続き接続していただければと思いますので少々お待ちください。
1:16:32	承知いたしました。
1:16:34	別に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:56	。
1:20:14	はい。
1:20:16	。
1:20:27	規制庁サグチです。すみませんもう一度。
1:20:32	本社と東京支社両方
1:20:35	の方で、私の声まず聞こえてますでしょうか。
1:20:40	中部電力アマノでございます。浅見さんの声をよく聞こえてございます。
1:20:45	御共済等ですサービスさんの声をしっかりこういつてます。はい規制庁サグチ ですありがとうございますこちら側もですねきちんと聞こえるようになりましたの で、引き続きの
1:20:56	続けさせていただきたいと思います。
1:20:59	先ほどもちょっとナリタさんの御説明一応私は何となくっていうか言いたいこと はわかったんですけど、まあそういうことを含めて、この 86 ページんについて も同様にちょっと適正化をしていただきたいと思いますので、
1:21:15	よろしくをお願いします。
1:21:18	中部ナリタで了解いたしました。
1:21:22	はい。規制庁サグチですけれども、引き続き、
1:21:27	これ最後のコメントになるんですかね、大きなコメントとして、
1:21:32	116 ページ以降、
1:21:37	116 ページは 110。
1:21:41	7 ページ目以降で一応今回御前崎沖の想定沈み込む海洋プレート内地震も 一応検討用地震として選定していただいて、当検討を行っているんですけど。
1:21:59	ちょっと次の 118 ページで、
1:22:06	要は
1:22:08	この後堅調な増幅を考慮した地震動評価をやるんですけど、そのときには、
1:22:15	御前崎のほうじゃなくて、
1:22:18	スラブ内地震で代表させるというんで、理由としては大体 A. 5 秒ですね周期 0.5 秒以下の周期体でスラブ内地震のほうが大きくなるかなと。
1:22:33	ということなんですけど。
1:22:35	今この段階で落としてしまうというのはあくまでも、その根拠とするのは、117 ページの
1:22:43	この応答スペクトルを
1:22:46	しかもその最初のなんていうすかねスクリーニングみ的にやられた、これだ けなんですかね。
1:22:54	というのは今回当然その検討していただいて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:57	いろいろ不確かさも含めて、断層モデル法で検討した結果っていうのは当然あるわけで、
1:23:05	当然堅調な増幅を考慮する地震動評価っていうのは、
1:23:12	どう考慮しない地震動
1:23:15	評価を踏まえて、されているもの。
1:23:19	というこれまでそういう流れでもあってそういう御説明だと思うんですけど、そうすると、じゃあ今回の断層モデルもやって最終的な結果として見たときにも
1:23:32	やっぱり、
1:23:34	スラブ内のほうが、この注目する周期体で、
1:23:39	大きくなってるの確認できている。
1:23:42	という
1:23:43	そういうものも含めてじゃないのかなと思ったんですけど、つまりなんかを 217 ページのこの図だけで落としてるんじゃないかと、ちゃんと最後まで検討して、両者を比べた上で、それでもやっぱりスラブ内のが大きいよね。
1:23:59	ちゃんと確認できてから、
1:24:02	代表としますじゃないのかなと思ったんですけど、そのあたりちょっとどのように考えられているか教えてください。
1:24:12	中部電力の石川です。
1:24:15	確かに 118 ページですわねその短周期側がおそらくニシノ放棄というのをですね、117 ページの結果等を見ていっているんですけども、実際に断層モデルの結果を比較しているのか御説明資料変わってしまうんですけども、本資料の本編の方の
1:24:32	406 ページのほうに、
1:24:34	ございまして、
1:24:37	ちょっと海洋プレート内ということでひとまとめにしてしまってるんですけど緑で示しているのかですね、
1:24:46	スラブ内地震等を沈み込む海洋プレート内地震、
1:24:50	書いてましてちょっと見づらいんですけどそれは上の列と下の列に置かれているのがわかるかと思います。こういった結果、この結果の上がやっぱりスラブ内地震で下が埋蔵教育の沈み込む海洋プレート内地震になってますので、
1:25:06	断層モデル校の結果不確かさを含めた結果も踏まえましても、増幅ありなどを検討用地震についてはスラブ内地震でのほうで代表できるというふうなことがいえると思いますので、こちらの 406 ページのですねこの緑の図をちょっといろいろ差別化して、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:25	示す等してこの資料の 1 もですね少し変えたりとかして説明のほうを拡充したいと思います。以上です。
1:25:36	規制庁サグチですけれども、おそらくそうなんだろうなと思って私もこの本編のほうのお湯とは多分映画がそれほどない地震でそうなんだろうなとは思ったんですけど、少なくともそれがわかるような形で今ちょっと資料の充実の
1:25:52	順番というのもありましたけど、今の書き方だとそういうふうに見えないんでそこはちゃんと
1:25:58	適正化なりをしていただければと思いますんで、
1:26:04	ちょっとそのついでと言ったらなんですけど今その本編の
1:26:08	406 ページのお話が出ましたので、ちょっとこれは例えば色分けするなりっていうのでわかるような形で示していただければいいと思うんですけど、同じような形でプレート間地震は、断層としては、言ってみれば一つなんですけど、内陸地殻内もう幾つかあると思うので同じような形で、
1:26:29	窓の結果がどんどん断層によるの地震動評価の結果っていうのは、例えばEを色分けして、
1:26:39	内陸地殻内の地震動評価結果は恒例ですよという、いわゆる人目で見えるようなものっていうのは、多分今なかったんじゃないかなと思うんであったらごめんなさい。思うので、そういう形で、
1:26:55	ちょっとですね、示していただければと思います。
1:27:04	中部電力の石川です。了解いたしました。ちなみにあのA-17 断層等をセーブの結果を重ね描いたものについては、こちら資料のほうになりますけれども乙 207 ページの方。
1:27:18	II Aと断層モデル法の重ね書きの方をしておりますが、
1:27:24	先ほど数示しと 3 ページの 406 ページとか 405 ページの段階で、断層がわかるように、言い訳するという御趣旨でしょうか。
1:27:36	規制庁される施設がわかりました。ありがとうございますそうですね 207 ページにありました。すいません。こういうような形で、
1:27:44	海洋プレート内もう二つにちゃんと分けて御前崎と判断し、沈む込むものと沈み込んだものとわかるような形で示していただければと思いますので、よろしくお願ひします。
1:28:03	中部電力の石川です。承知いたしました。
1:28:13	規制庁サグチですけども、あとちょっと薄い。
1:28:17	コメント回答等のその 2 のほうなんですけど、これを見させていただいて、今御社としては特に今日なくて、それはなんでかっていうと、
1:28:28	結局最後の 5 ページかな。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:31	5 ページで、結局、今その検討に用いているモデルのこの境界の形状等、今回のその新たに
1:28:41	発表された知見というのが整合しているもう結局同じような形なんで、特に影響はないと、そういう御説明
1:28:51	だったかなと思うんですけど、以前ですね、ちょっと
1:28:55	補足説明のほうのもみみたんですけど、おそらくプレート間地震のときにこの境界面の話って何か。
1:29:06	1 回しててですね、当然そのときに、今の内閣府モデルイトウ後、実際に広瀬のニシキ 2008 でしたっけ、そういったモデルとの比較とかそういうのもやったりして、多分断面図みたいなものもあったと思うんですけど。
1:29:24	そういうのも含めて、
1:29:27	示していただくことって可能でしょうか。
1:29:42	中部電力のイワセです。多分御指摘があったのは、内陸地殻内地震の断層設定のときに、
1:29:56	断層の下端を決めるときに、プレートの形状の検討した説明資料があったとそこの御指摘だと思うんですけども、
1:30:07	プレート間、
1:30:10	地震のところだと、
1:30:14	これは特にそうですね、
1:30:17	全体的な整合を見るのはいいんですけども、どこで比較するのかってなかなか
1:30:25	どう見ていいか難しいので、あまり
1:30:29	どこの断面を見せるかによってちょっと誤解を与えてしまうかなっていうことを懸念したんですけども、何か具体的にどこかのついて
1:30:39	みたいとかそういったところがあるという御趣旨でしょうか。
1:30:44	規制庁田口ですすみませんありがとうございました。そうですね。内陸地殻内の総層ですね。だからこの方も話だったかもしれないんですけど、一番気にしているのは、当然そのプレート間地震で地震動評価をするときに、
1:31:01	影響の大きいSMGAというのがあると思うんですけど。
1:31:07	その所て結局、
1:31:11	変わるんですか変わらないんですかって言う例えば
1:31:16	なんて言うんですかね。
1:31:19	多分一番近いところが一番影響が大きいんですけど、SMGAがちょっと近くなるとか、逆に離れるとか、
1:31:28	深さ的にですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:30	そういうところでどうなんですかっていうのをちょっと確認をできればなと思ったんですけど、そういう観点で何か断面図みたいなもって出せます。
1:31:46	ちょっと検討をしますが、なかなか悩ましいのはこの
1:31:54	特に敷地の近くですね、
1:32:00	どうしても松村の知見ですと海の境界のところにおいて、
1:32:07	我々として、この松原の敷地の近くのところのプレート境界の断層の位置関係をどれぐらいで見ているのかっていうのがちょっと悩ましいところがありまして、そこも含めてちょっとどういう形で説明できるかを検討させていただければと思うんですけども、
1:32:25	はい、規制庁される地層から見ましてちなみになんですけど、これ何か例えばですよ、この松原 2021 の中で、デジタルデータみたいなものってあるんですけど、それとも何かこれで自体たぜ。
1:32:41	この前提自体じゃないんですけどそんなので読み取って何かやるしかないんでし加盟なんか何かちょっとそういう情報があればちょっと教えてください。
1:32:51	中部電力のイワセです。
1:32:53	防災科研のホームページのほうにですね、10 キロとかのこのコンターの線が荒っぽいんですけども、公開されていて、今回我々のほうで、例えば 5 ページの右の図で重ね書きをさせていただいてますけど。
1:33:11	これについてはデジタルデータに基づいて書いているといったそういった形のものになっています。
1:33:19	はい。規制庁サグチですわかりましたのでデジタルデータとしてはあるということですね。なので
1:33:27	当
1:33:30	ほとんど多分この図を平面図的に見ると確かに同じような
1:33:36	うん。感じではあるんですけど。
1:33:39	だから、プレート間地震のときに例えば敷地からの最短距離で
1:33:45	本当にそのアスペリティが一番近くに置かれているのかみたいな検討の
1:33:50	があったと思うんですけど、例えばそういう断面図に落とすと、どこに来るのかとかそういうことまではできないですかね。難しいですか。
1:34:02	中部電力の成田でございます。これまで多分南海トラフのプレート境界面で広瀬というのは、5 ページ目を見ていただいても、ある程度平滑的なのというかなですね、コンタ投資をつなぎ合わせることができて、
1:34:17	それがいわゆる断面図をかけたという側面があるんですけど、今回の松原先生のラインがですね見ていただく通り、かなりでこぼこしております、これを要は断面でつなぐちゅうことはこの間を付帯ほかなりしなければいけないと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:32	その部分が少しスムージングされてないコンター線に関して、断面図を書いたときに、どういう見え方がしてしまうのか、それはいい面なのか持ち越し誤解を生じさせるの断面になる可能性もありますので、ちょっと一旦検討させていただきますけれども、ちょっと松葉さんのこのコンターがどっとスムージングされてないという前提は、
1:34:52	ちょっと我々としては、だめ残すことが難しくなるかもしれないなっていうことは今考えております。
1:35:01	規制庁サグチです実情とか現実的まあわかりましたで一応だから、少なくとも今の案使ってる使ってるっていうか、その検討に用いている断層モデルに
1:35:17	小松原 2021 は、広瀬Tail2008 より、ちょっと変わったんだけどむしろ今使っている。
1:35:27	モデルには、
1:35:29	近いというのか、整合しているというふうなので、特に地震動評価についても、影響を及ぼすもんじゃないって考えているっていうそういう理解ではよろしいんですよね。
1:35:45	中部電力のイワセです。ご指摘の通り、我々としては広瀬よりは浅くなったという知見でございました。地下構造調査に基づいてもともと検討されていた内閣府のプレート境界については、どちらかというより整合する形のほうに近づいた知見かなというふうに受けとめております。以上です。
1:36:36	規制庁ナイトウですけども、さっきのナリタさんがちょっと検討していますということをおっしゃったので、そこをまず検討はまずしてみてくださいというのは、これ自身の熱でいろいろ検討してもらって、SMGAが敷地のやつに地震動には多く、
1:36:55	聞いていますという結論を
1:36:58	分析結果になっていて、
1:37:00	言っているはずですよ。そうすると、SMGAを行っている位置の阿蘇の深さが、これが今やってるよりも浅いという話になるときってきちゃいますよねっていうのは容易に想像つく。
1:37:14	わけで、そこは十分に今のモデルでこの知見をカバーできてるんですけどっていうところが肝になるはずですから、そこをどうやって説明し切れるのかってのはちょっと考えていただけませんか。
1:37:31	少年 6 ナリタでございます。了解しました検討させていただきます。
1:38:13	。
1:38:14	規制庁サグチですけども、多分以前も御説明あったと思うんですけど、すいませんしょうもないことかもしれないんですけど、海洋プレート内地震のところ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:25	M7.4とか、MjMjじゃないわMw7.4とかいろいろマグニチュードの表示が、
1:38:36	混在してて、多分これはMjもMwも同じという。家庭のもとをされているというこれまで多分そういう御説明だったと思うんですけど、何かそうそう例がわかるようなものって、
1:38:53	ありましたKという何かこう、
1:38:57	場合によってMjとMwって違うじゃないかっていうところが、何かそうなので、そのあたりがどうかなのと思ったんですけどちょっと教えてください。
1:39:15	中部電力の荒戸でございます。
1:39:21	それぞれのMjとMwはスラブな地震は、基本的にこれだと考えておりますので、そのあたり、わかるように、どこが明らかに注釈を入れるなど検討させていただければと思います。
1:39:36	規制庁サグチですけどそのあたりもよろしくお願いします。
1:40:20	はい。規制庁昨日ちょっと時間の都合もあって、向かちょっと再度お聞きするかもしれませんけど、引き続き記載の適正化とか、追加だとかまとめ資料的なものですね。
1:40:35	2、
1:40:37	対して、ちょっと御説明を引き続きお願いします。
1:40:47	はい、中部電力の石川です。引き続き、
1:40:50	特定施設のまとめ資料のほうの説明をさせていただきます。
1:40:56	資料のほうは右言い方を22となっているものになります。
1:41:05	1ページのほうがコメントと回答概要を示しております。
1:41:09	No.1 仕切って地下構造の速度構造のトモグラフィ解析について定量的な評価が重要なエッセンスたもので付則に記載されているチェッカーボードテストやスパイクテストについて、Point本資料に記載することというコメントで、
1:41:26	対応としては右側に示す通り、テストについてポイントがわかるようチェッカーサイズ等が記載された資料を追加しております。
1:41:34	No.2のほうは平成26年8月の会合で参考としてしましたS波低速度層の地質学的な専用考察した資料を補足説明することを追加することというコメントで、
1:41:47	対応としては補足の①E-06のほうに追加をしております。
1:41:52	沼さんは、海底試掘トンネルの観測に関する説明について、位置情報を含めて、位相速度を示す一次H位置情報を含めてそう速度を示すことというコメントで、
1:42:06	この対応としてはこの地震計の設置位置について、設置深さ及びS波速度を追加しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:14	原賠法は解放基盤表面の設定の説明に関して地質について、検討範囲である敷地のものを示すことでまた速度構造について二次元断面を示したの知ってVs700メートル/sec以上のものが広がりを持つてはわかるような形で示す後続のコメントです。
1:42:33	こちらコメントにあるように解体をいたします。
1:42:36	N-5を検討用地震の選定の説明に関し流れや全体がわかる説明資料を補足の最初については押さえて資料の最初に加えることとのコメントで、この対応として資料を参照の冒頭に追加しております。
1:42:54	N-6は火曜日の地震の検討用地震の選定に関する説明について、代表的という言葉はどのような意味かわかるように記載をすることのコメントで、
1:43:05	対応としては代表的という意味について地震規模大きく敷地で観測記録が得られる各研究機関で震源特性等についての詳細な検討がなされている地震である旨追記しております。
1:43:18	合わせて先ほどコメント回答でもやりましたけども、火曜日耐震の検討地震の選定フローの再整理を行いました。
1:43:27	No.7は全体のまとめ資料の仕上がりをイメージして何を記載すべきかをよく整理することというコメントです。
1:43:34	この対応としては特定してのまとめ資料として各国の概要やまとめを整理するとともに、本資料に記載された資料を検討しますといろいろ記載すべき集を検討しました。
1:43:47	対応の部隊、具体例としては増幅なしの領域とあるの領域の設定について描いを追加してその根拠資料も追加すると、さらに関連するページの明記をしました。
1:44:00	また各震源モデルのモデル図とパラメータ表のほうを補足から異常さしてきております。
1:44:07	2ページ飛ばして3ページが特定してのまとめ資料として公開をした資料一覧となっております。
1:44:15	基本的に前回から変わります性が5000②のほうについては、
1:44:21	前回の②と③の地震動評価結果の部分のみを合体させて②としております。
1:44:28	補足の③のほうは前回の④を特定しての操作の補足説明資料をおまわりさん通しております、
1:44:36	先ほどの沈み込む海洋β地震に関する回答オオノを関連する資料をこちらの3のほうには反映しております。
1:44:46	4ページ5ページ飛ばしまして6ページに本編の目次を示しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:53	市長が敷地周辺の地震発生状況 2 章が敷地における地震動の増幅特性参照が敷地ごとに震源を特定して作成する地震動でこれについては変更ありません。
1:45:05	目次段階の変更点としましては 2-3 に敷地における地震動の増幅特性のまとめを追加しております、ここで、2 章のまとめを追加して 3 章の頭に特定しての方針から地震動評価までのまとめ資料を追加することで、
1:45:21	基本的にはこの部分を見れば全体の流れがわかるように構成しております。
1:45:27	また 3-1-3 の増幅なしの海洋プレート内地震の地震動評価については、先ほどのコメント回答を踏まえて 3-1-3-1 と O2O を設けております。
1:45:39	それでは変更点中心に説明していきます。
1:45:44	7 ページから一章です。こちら大きな変更ありませんけれども 9 ページから 11 ページ 2 秒がしております地震分布のデータを最新のものまで含めたものに更新しております。
1:45:58	飛んで 17 ページをお願いします。
1:46:04	17 ページからの認証棒をに応じて敷地における地盤増幅特性を説明して 2-2 でその地盤増幅特性の地震動評価への反映方法を説明するという流れとなっております。
1:46:18	ここで 2-1-2 の地震観測記録の分析のところでは順番前後しますが番号 3 のコメント回答しておりますので、説明します。40 ページをお願いします。
1:46:35	40 ページからは海底試掘トンネルにおける連続地震観測について陸域観測点である 34 観測点と大深度観測点の地盤増幅特性との関係を検討しております、
1:46:48	海底試掘トンネルでは堅調な増幅は見られないということを確認した旨説明しておりますが、
1:46:54	上から二つ目の箱書きの中の各観測点について番号 3 のコメント対応として、地震計の、TP 表示の設置深さと S 波速度を追記しておりますのでご確認ください。
1:47:08	続いて 44 ページからが 2-1-3 の地下構造調査及び解析検討についてです。
1:47:18	45 ページに検討概要を示しておりますが、敷地周辺近傍対象に地下構造調査と地下構造モデルの作成、解析検討を行っております。
1:47:29	ここではイソダテ速度層の推定にあたる部分で、No.1 のコメントをに対応しております。62 ページお願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:42	ここまでで右下の各測線で実施されたオフセットVSPの結果をお示ししまして、62 ページでは破探査結果から確認されるS波低速度層の分布について説明をしております。
1:47:56	ここでナンバー1 のコメントありましたので、次ページ以降で対応しております。
1:48:02	対応として 63 ページにチェッカーボードテストの例、64 ページにスパイクテストの例を追加しております、
1:48:10	さらに 65 ページでは速度構造調査結果に基づき推定したりさ低速層の分布について説明をしておりますが、ベースの信頼性について箱書き三つの三つ目の丸の通り、
1:48:23	査定速度層の分布の信頼性について、S波低速度層確認した速度構造探査結果に関し、チェッカーボードテスト及びスパイクテストにより信頼性を確認した後、追記をしております。
1:48:38	続いて 88 ページをお願いします。
1:48:47	88 ページからは 2-2 の地震動評価への反映方法についてです。まず 89 ページに概要を追加しましたと。
1:48:57	上段に示す敷地における地盤増幅特性の地震動評価への反映方法として、下段は小分けに三つ記載しております。
1:49:06	一つ目は、この地盤増幅特性を踏まえて堅調な増幅を考慮しない増幅出した領域と映像管理の領域等設定し、
1:49:16	増幅を考慮しない増幅なしの地震動力と評価等を考慮する増幅仮の評価を実施するということ。
1:49:24	一つ目は増強しての地震動評価では平行成層地盤としてみなして地震動評価を行うということ。
1:49:31	三つ目は増加の地震動評価ではイソダ低速度層による三次元的な地下構造の影響を踏まえて地震動評価を行うということです。
1:49:40	英語ではまず解放基盤表面の設定を説明した後、これら三つについてそれぞれ具体的に説明する資料構成としております。
1:49:50	90 ページから 90 ページから解放基盤表面の設定についてです。91 ページに設定についてまとめておまして、
1:49:59	詳細の資料が次のページからになります。
1:50:03	92 ページを敷地の基盤を構成する相良層についての資料ですが、こちらNo.4 のコメント回答として支出増を検討範囲である敷地のものに変更しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:17	93 ページからはS波低イソダ速度についてですが、こちらもナンバー4 のコメント対応として、まずはこのVsの 100 メーター/sec以上のものが広がりを持ってやることがわかる、こちらの図をお示ししまして、
1:50:32	AirCoreにおいて敷地で実施したオフセットベースP探査結果によると、S波速度が 700 の層が著しい高低差がなく、ほぼ水平に広がりをもって分布していると説明し、
1:50:44	しております。
1:50:46	そのあと 9495 ページで前回もお示したPS検層の結果を再掲して、
1:50:52	解放基盤表面の設定の資料としております。
1:50:56	ナンバー4 のコメント回答については以上になります。
1:51:02	続いて 98 ページからが地震動評価への反映方法についてです。
1:51:09	先ほど説明した三つについて順に示しております。
1:51:14	まず 99 ページから増幅なし領域と増幅代わりの領域の設定についてです。No. 7 のコメントの対応となっております資料を追加しておりますが、
1:51:25	100 ページに領域設定の検討概要をまず示します。詳細は説明のため省きますけれども、ここでは地震観測記録の分析として、観測点ごとの研修の増幅の有無の検討と。
1:51:39	地下構造調査結果の分析として、S波低速度層の分布の検討等をその影響範囲の検討を行いまして、
1:51:47	最後をそれぞれの領域を設定しております。
1:51:52	それでは根拠資料につきましては、括弧に説明したものの再掲になりますので省略しますが 101 ページから 10 に掲載しておりますのでご確認ください。
1:52:05	飛んで 107 ページからが増幅なしの地震動評価になります。これは平行成層地盤とみなして地震動評価を行うとしておりますので、地震動評価に用いる一次元地下構造モデルの設定等をそれを用いた観測記録の再現検討について説明をしております。
1:52:24	資料の順番を入れ替えたり一部追記しておりますけれども、基本的にないような時ですので説明を割愛します。
1:52:33	同様に増幅代わりの評価の説明が 114 ページからになりましてこちらも変更ありませんので割愛させていただきます。
1:52:44	ページ飛んで 25 ページをお願いします。
1:52:49	合わせて 125 ページをお願いします。
1:52:54	125 ページからが 2-3 として敷地における地震動の増幅特性のまとめを追加しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:03	126 ページに文章で 1 枚にまとめたページを追加しております、詳細説明しませんが、上段が 2-1 で説明した敷地における地盤増幅特性、指定下段が踏まえた地震動評価への反映方法のほうにあります。
1:53:20	127 ページ以降をそれぞれについて、図も示しながらまとめたものをお順に並べておりますのでご確認ください。
1:53:31	続いて 130 ページから参照のを特定して策定する地震動の説明になります。
1:53:37	大きな構成は必ず 3-1 が増幅の C3-2 が増加の地震動評価ですかその場合に、概要のほうを追加しております。131 ページからになりますけども、オオノ No.5 のコメント対応も踏まえまして特定し策定する地震動の概要を追加しております。
1:53:57	ここでは方針検討用地震の選定地震動評価について簡潔に記載をしております。
1:54:05	まず方針としては特定しての地震動を赤く地震タイプについて、敷地における地震動の増幅特性を踏まえ、検討地震複数選定した上で選定した検討と信ごに不確かさを考慮した評価を行います。
1:54:19	二つ目の丸増幅特性を踏まえ AA 領域設定と地震動評価を行うことについては先ほど説明した通りです。
1:54:28	次にコメントにありました検討地震の選定につきましては、増幅の人検討地震は、各地震タイプについて A の増方法等による地震動評価の比較を行って、
1:54:39	敷地に大きな影響を与えると予想される地震を選定します。
1:54:44	増幅ありの検討地震についてはぞ方向に震源が位置するものを選定し、パースで最後それらの地震動評価については従来説明している通りになります。
1:54:57	132 ページの資料を通過しております、各地震タイプの増幅なし有りの検討地震について調査結果から評価までの選定までのフローを 1 枚にまとめたものを、を追加しております。
1:55:11	どのように選定するかにつきましても上のほうに記載をしております。
1:55:17	133 ページと 134 ページは選定した県銚子について基本震源モデルの制定設定から地震動評価までを増幅なし有りそれぞれについて 1 枚にまとめたものです。
1:55:30	こちらの資料もともと本店の冒頭にありましたけども、特定してについてまとめたものでこちらに移動してきましたと。
1:55:38	修正点としてはコメント回答等で説明した御前崎沖の想定地震を追加したり、
1:55:45	あとは地震動を評価手法について地震タイプごとに記載していったものを一つにまとめたりしております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:54	135 ページ以降は当初申請時からの変更点についての一覧表でこちらもホームページの冒頭にあったものをこちらに移動してきました。
1:56:04	御前崎沖の想定地震については 137 ページのほうに追記をしております。
1:56:14	141 ページからは各地震タイプの増幅なしの地震動評価についての説明になります。
1:56:21	共通する修正点として先行サイトの事例を参考にもともと補足説明資料に掲載しておりました。各モデルのモデル図とパラメータ表 5 件すべて本編のほうに移動してきております。
1:56:35	また加速度時刻歴役員の方を掲載しておりましたが、そちらは補足説明資料にすべて掲載しておりますので、今回本店からは削除しました。
1:56:46	飛びますが 292 ページをお願いします。
1:56:50	。
1:57:03	292 ページからは増幅なしの海洋プレート内地震の地震動評価についての資料になります。こちらコメント回答を踏まえて検討地震選定を追加しましたので、この検討地震の選定に至るまでの資料を抜粋して 3-1-3 に掲載しまして、
1:57:22	その人に 3-1-3-1 と 2 を設けてそれぞれの地震について地震動評価までの資料を掲載しております。
1:57:31	詳細説明しませんが 294 ページをお願いします。
1:57:39	こちらの資料で代表的な地震、海洋プレート内地震を示しておりますが、ナンバー6 のコメント対応としまして冒頭説明した代表的の意味についての資料の左側に※で記載をしておりますのでここを確認ください。
1:57:59	当面で 405 ページをお願いします。
1:58:09	405 ページからがまとめになり増幅なしのまとめになります。405 ページが応答スペクトル法のすべての結果を重ね描いたものを 406 ページが断層モデル法のすべての結果を重ね描いたものになっておりまして、
1:58:26	御前崎沖の想定地震のほうも追加しております。
1:58:33	続いて 408 ページからは増幅代わりの地震動評価についてです。まず 3-1 の評価の方針についてですが、基本的には再掲となっております、409 ページには増過疎記録の分析結果等々、顕著な増幅を考慮する地震動評価をまとめた資料で、
1:58:54	410 ページは、地震動評価の方針に関する資料をお 411 ページは増幅の範囲の設定に関する資料を 412 ページは増幅係数の増幅の程度に関する資料を示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:08	その続きとしまして 413 ページに地震動の顕著な増考慮する地震動評価の結果の妥当性の確認に関する費用を 1 枚追加しました。
1:59:21	続いて 414 ページからは増加の地震動評価の方針等をもう少し具体的に説明した資料を前回同様掲載しておりますが、
1:59:31	415 ページ以降のカーペットニシノ検討地震の選定につきましては、先ほどコメント回答JA説明した内容を反映しております。
1:59:42	次ページ以降関連する箇所同様に修正しております。
1:59:49	法務飛んで 421 ページから各地震タイプの増加の地震動評価についての資料です。
1:59:57	増幅度比と同様にモデル図パラメータ表を追加しまして、加速度時刻歴半径は削除しております。
2:00:05	コメント回答資料で説明した火曜日の地震の増幅方向の背景を増幅させた地震動評価については、3-2-4 に反映をしておりますので説明します。
2:00:18	569 ページをお願いします。
2:00:27	569 ページはコメント回答等資料で説明した最後まとめのページ要綱というのは 2E再掲しております、こちらを本編に入れることで下段箱書きの通り、背景を増幅させた評価結果を採用するという内容を
2:00:45	こちらの本編に反映させる形としております。
2:00:49	で 570 ページにはモデル図 1 の背景を増幅させるやつのモデルで一段で、
2:00:55	571 ページの結果は背景を送付させた結果となってきます。
2:01:02	こちらの資料は以上です。
2:01:09	最後補足の変更簡単に説明しますが、
2:01:15	まず補足の①についてです。1 ページに目次示しておりますが、もともとこちら R1-03 として、会計試掘トンネル観測の資料を掲載しておりましたけれども、こちらの資料は本編にすべて掲載しておりますので①から削除しております。
2:01:34	同様にもともの①-12 で増幅な人増幅代わりの領域の設定の資料を掲載しておりましたが、そちらも本編に入れましたので削除しました。
2:01:46	今回の①-12 としましては地震の検知の増幅の地震動評価への反映方法の資料をこちらのもともと大丸異論入れちゃったんですが、内容的にこちらの①に該当しますのでこちらに移動してきております。
2:02:04	またオオNo.2 のコメント回答として○
2:02:10	1-06、
2:02:13	ページで言うと 96 ページからこの日地質的な特徴を踏まえたS波低速度層の形状に関する考察の資料を再掲しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:28	替わって丸補足の②のほうについては先ほど説明した通りで、従来の②③の地震動評価の部分合体して構成しております、
2:02:39	あと御前崎沖の想定地震のほうもこちらに追加しております。
2:02:44	補足の③については、こちらは可溶を沈み込む海洋プレート内地震、
2:02:50	に関連するものとして、③の 242735 を追加して一部資料の順番のほうに入れ替えております。すいません駆け足になりました説明以上になります。
2:03:08	はい、規制庁サグチです。ご説明ありがとうございました。今御説明のところで、
2:03:14	確認はそんなに実はないんですけども、1 点だけちょっと。
2:03:20	本編の本園本編と言っているのかな、もう 40 ページでご説明ありましたけど、最初の
2:03:30	1 ページのところ、コメントのNo.22 なんですかね。
2:03:36	※3 ですね、そのなんですけど。
2:03:39	これ、
2:03:43	確かに書かれているんですけどVsも 700 メーター/sec程度しか書かれてなくて、
2:03:53	根拠としてはPS検層結果によるということなんですけど、それで、例えば補足説明資料を
2:04:01	①とかでいいんですかね。
2:04:04	を見ればわかるようには、
2:04:06	なってるんです。
2:04:08	でしたっけ。
2:04:16	はい。
2:04:17	中部電力の石川です。
2:04:21	ですね 30 万等を大深度観測点のほうにつきましては、都市国家の資料のほうに、
2:04:29	検層結果から同定した結果のほうを追加しております、
2:04:37	すいません。それで、
2:04:39	ちょっとすみませんすぐ出ないんですけど。
2:04:42	どうぞ。
2:04:45	30 万 44 万と 50 万のPS検層 30 万の検層の結果について独歩や
2:04:56	解放基盤表面の設定のところ
2:05:00	90 本編の 94 ページのほうに、
2:05:03	そちらを掲載して大きいです。
2:05:09	大深度観測点のほうについて検層結果というのが地盤モデルの

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:17	妥当性検討のところの説明に初期モデルとしてPS検層の結果を入れておきまして、
2:05:24	装置なんかを六郎、
2:05:29	11 補足の①の
2:05:41	どうぞ。
2:05:43	。
2:05:44	174 ページのほうに大深度観測記録を用いて成形した地盤モデルのアプローチ、②というものが記載しておりますけども、その初期モデルのほうから記載をしております。
2:06:00	すいません海底試掘トンネルの方につきましては補足にもですね本編の資料のほうがない状態ですので、
2:06:08	必要であれば追加の方いかがしたいと思います。
2:06:13	以上です。
2:06:15	規制庁サグチですけども、なので一番冒頭でしたっけ。
2:06:20	の品質確認のところにもありましたけど、必要なエビデンスとなるデータっていうのは、
2:06:25	まずちゃんとどこかには入れていただいた上で、その飛ばすなり何か参照するなりでいいですけどもちゃんとわかるような形で示していただきたいと思いますが、
2:06:42	今も何かバラバラとこっちの資料のここにあったり、資料のこっちにあたりとかっていうのはちょっとなかなか我々もそこまで出すかって言うとそういうわけでもないで、一応ベースとなるものについては何かちゃんとわかるような形で示していただきたいと思います。
2:07:02	中部電力のイシカワです承知しましたITAG幾つのほうの資料と追加しまして紐づけのほうをちゃんとするようにいたします。
2:07:47	はい。
2:07:48	規制庁サグチですけども、
2:07:52	やはり今回ですね、まとめというのもあって、やっぱり
2:07:58	膨大な資料があつてですね、実は私もこれすべては全部見切れてはいないんですけども、引き続きですね、いろいろ確認させていただきたいと思いますし、今日幾つか
2:08:12	コメント、こう出ましたので、当然それについて対応していただく、記載の適正化なり、資料の充実化っていうのがあると思いますので、これは引き続きですね、ご対応いただければと思いますのでそういうことも含めてですね、再度、
2:08:30	ヒアリングをさせていただきたいと思いますが、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:34	よろしいでしょうかね。
2:08:38	中部電力アマノでございます承知いたしました。特に先ほどの松葉のところを少し検討してどういう説明がよろしいかということも含めて検討して改めてヒアリングのほう持ち込みたいと思います。
2:08:56	はい。規制庁サグチさんの時間もちょっとかなりあの過ぎてしまいましたのでちょっと途中ですね接続が不良なところもありましたけれども、そういった意味で、ちょっとヒアリングはここまでにさせていただきたいと思うんですけれども、
2:09:11	中部電力の方から何かありますでしょうか。
2:09:21	中部電力アマノでございますはい、頂部ご確認いただいたところをしっかりと迅速に修正して左のほう申し込みさせていただきたいと思いますよろしく願いいたします。
2:09:34	はい。規制庁サグチですが。それではこれをもちまして、浜岡研修が発電所のヒアリングを終了させていただきます。どうもありがとうございました。
2:09:46	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。